

羽ばたけ!羽島っ子 6月号

いちき串木野市立羽島小学校
公式ブログ好評配信中 <http://hashima.synapse-blog.jp/hashimasyo>



つなげる つながる つながっている

校長 西村 喜一

SDGs(エス ディー ジーズ)。この言葉が聞かれるようになったのは、今から5年ほど前です。2015年に、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のことですが、今では、いろいろなところで見たり聞いたりするようになりました。SDGsは、17の大きな目標、それらを達成するための更に詳しい169のねらい(ターゲット)、そしてより具体的な244の数値目標(指標)があります。これを2030年までに達成するように全世界で様々な取組を行っています。そもそも、このSDGsが、なぜ採択されたのでしょうか。技術革新で豊かな暮らしをしている人々、明日の食糧さえまかなえない人々、戦争など争いに苦しんでいる人々、どんどん開発を進めたい人々、環境問題に悩まされている人々など、世界の人々は、それぞれ置かれた状況や立場が違いますが、1つの地球に住んでいる同じ人間として、共生を目指してこの目標を定めたということのようです。国連が始まった頃は、南北格差の問題解消が目標でした。しばらくして、開発による環境問題が深刻化し、その課題解決のための目標が定められました。そして今日、このSDGsの必要性が生まれてきたのです。この地球は、今生きている人間のものだけではなく、私たち人類の子孫や地球上の全ての生物のものでもあり、今できることを考え全世界で実行し、**次の世代に「つなげる」**ことが重要なのです。

「切れ目のない支援」という言葉も最近よく聞きます。これは、妊娠・出産・子育ての支援から端を発した言葉のようです。ほとんどが核家族の現代で、子育てはそれぞれの家庭に任されているところが多いですが、それによって様々な課題が生まれ、子育てがしづらい社会になっているようです。それらの解決のために、厚生労働省では、様々な支援事業を行っています。また、文部科学省でも、特別な支援が必要な子供が社会参加するまで、一貫した支援体制を確立する重要性から、その課題解決のために各事業が行われており、いろいろな機関の連携が図られています。支援に切れ目を作らないために、**みんなが「つながる」**ことが重要であるということです。

さて、7月2日に、羽島小・羽島中において「小中一貫教育公開研究会」が開かれます。この小中一貫教育という考え方は、平成19年の学校教育法の改正で、それまで小学校と中学校それぞれの目標とされていたものが、小学校・中学校9年間を通した義務教育の目標と見直されたことから始まっています。そして、平成27年の学校教育法改正により、小・中学校9年間の小中一貫教育が制度化され、新しく「義務教育学校」という校種が加わりました。そもそも、義務教育を小学校6年間・中学校3年間としたいわゆる「6・3制」が導入されたのは、昭和22年のことで、今から74年も前の話です。社会が劇的に変化の中で、学習内容が多様化・複雑化したこと、児童生徒の成長がはやくなったこと、問題行動が早期化してきたことなど、様々な課題が出てきました。そこで、小・中学校がこれまで以上に連携し、一貫した教育を行うことが重要になってきたのです。6・3制の導入は、当時のアメリカの制度を手本としたそうですが、今ではそのアメリカで6・3制を行っている州は、ほとんどないということです。元はと言えば、子供の成長を6と3に区切ったのは、私たち大人の都合で、人間の成長は、当然切れ目なくずっと続いていることを考えれば、ある日突然生活を一変させる制度には、無理があったのかもしれない。**人間の成長は「つながっている」**と考えることが大切であるということです。

これらの「SDGs」「切れ目のない支援」「小中一貫教育」は、「つながり」という一つのキーワードで結び付けられます。以前、小学6年の国語の教科書に「生き物はつながりの中に」という説明文がありました。その中で、生き物は、時間的・空間的なつながりの中に生きていて、一人一人が大切な存在であるということが書かれていました。これまで学校では、小学校文化・中学校文化という異校種の文化の違い(小・中学校の教育観などの違い)によって、教育を分断してしまうことがありました。でも、子供たちの成長は「つながっている」ということを念頭に、これからは、この「つながり」を意識した「小中一貫教育」という新しい文化(教育観)を創りながら、子供たちの成長をしっかりと見守りつなげていかなければならないと思います。コロナ禍で、今回の小中一貫教育公開研究会を、保護者や地域の皆様にご覧いただくことはできませんが、今後様々な機会をとらえ、小中一貫教育の取組を紹介し、学校・家庭・地域をつなげていけたらと思っています。

水泳学習

6月初めから始まった水泳の学習。雨の日が多いですが、みんな頑張っています。特に1年生は、初めてのプールでの学習に全力で取り組んでいて、とても楽しそうです。



全校朝会をリモートで実施



6月の全校朝会はリモートで実施しました。今回の話のキーワードは、「立腰」。立腰とは正しい姿勢を保つことです。子供たちは各教室において、しっかりと正しい姿勢で話を聞くことができました。

米作り・サツマイモ植え

6月14日に3年生から6年生は、総合的な学習の時間において、米作りを行いました。今年も萩元の有村育雄さんに指導をしていただきながら、自分たちでまいた種モミから発芽した苗を使って、田植えをしました。11月に収穫し、12月に餅つきを行う予定です。

2年生は、地域の高齢者クラブの方々のご協力をいただきながら、畑にサツマイモの苗を植えました。順調に育てば、11月ごろに収穫できそうです。地域の方々に支えて頂きながら、すばらしい体験ができています。



海辺で遊ぼう!

5月26日に「海岸清掃」と「海辺で遊ぼう」を行いました。まず、海上保安庁の方や地域の浜友会の皆さんと一緒に海岸を清掃し、その後釣りや貝拾いをして故郷の海で楽しい時間を過ごしました。



学校保健委員会・家庭教育学級開講式・親子読書会

6月9日に学校保健委員会ではオフィスピュアの高崎先生、家庭教育学級では社会教育課の本車田先生に来ていただきました。高崎先生の講話では、「ちがいこそ宝」をキーワードに人権について話を



していただきました。とても分かりやすい話で参加者の人権意識も高まったようです。



7日(水) 水泳授業参観・学級PTA 10日(土) 引き渡し訓練
7月31日(土)～8月1日(日) サマーキャンプインきりしま